

# 第13期社会工学研究会 アジアダイナミズム班

## 華僑とモンゴル帝国史

学 部 生 : 野中、羽田、山埜、田中、渡辺  
大学院生 : 森、杉、森田、黒田、呉  
修 了 生 : 光永  
指導教員 : 金美徳、水盛涼一

# 2017年～2021年 論文のテーマ

2017

「モンゴル帝国のユーラシア興隆史」 107ページ

2018

「モンゴル帝国の興隆と衰退」 244ページ

2019

「モンゴル帝国と朝鮮半島」 84ページ

2020

「パンデミックのユーラシア史とポストコロナ」 118ページ

2021

「倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民～」 106ページ

# 研究目的・方法

- ✓ アジア班が**目指す論文**は、歴史の視点から現代・将来を展望する
- ✓ **文献研究とフィールドワーク**を中心に研究活動を行う
- ✓ **歴史的観点、国際関係論、経営組織論**からも分析
- ✓ フィールドワークは社会情勢や訪問先の都合等も踏まえ計画
- ✓ 2021年はモンゴル以後と日本の国際関係の**歴史研究**を通じ、

**倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民**を取り上げた

※倭寇とは東アジア沿岸諸地域で14～16世紀頃に海賊行為と密貿易を行なう集団

# 2022年のテーマは華僑



相手国の  
国内事情

相手国の社会・経済・  
文化・国際観念など  
「どうして受け入れる？」

中世の移民  
貿易商人  
華僑

「境界人」 マージナルマンの実態と変容  
……国内移民・国外移民……  
東三省・内蒙古・寧夏・新疆・広西 etc.  
東（長崎・横浜・西川口） 西（一带一路）  
北（モンゴル・ロシア） 南（アセアン）  
+ アフリカ・アメリカ・オーストラリア

中国の  
国内事情

中国の社会・経済・  
文化・国際観念など  
「なぜ移住する？」

過去現在の  
移住者たち

インド（印僑）・客家  
ユダヤ（猶僑）・日僑  
彼らと比較して……  
**商売の秘訣**・同胞意識は

# 華僑とは

狭義： 本人か先祖が中国出身であり、中国国籍を持つ在外中国人

広義： 中国出身で海外で暮らす人と、その子孫

様々な呼ばれ方：華僑、華人、華商、華裔、客家、プラナカン、Tang People

第1期 8～16世紀

交渉期

第2期 16～19世紀半ば

摩擦期

第3期 19世紀半ば～20世紀半ば

競合期

第4期 20世紀半ば～1979年

順応期

第5期 1979年～

同化期（または吸収期）

華僑の歴史は1,300年



# 分布



## 世界に広がる中国人・中国系人 Ethnic-Chinese Living Worldwide



## 系人

### 知られざる華僑の歴史をつぶさに… 神戸華僑歴史博物館 The Undiscovered History of the Overseas Chinese Unveiled in Kobe

神戸華僑歴史博物館は、1979年10月、神戸中華総商会ビル（KCCビル）が落成したときと同時に開館しました。神戸の華僑が自ら運営にあたる、世界的にも珍しい博物館です。この博物館は、神戸華僑の生活と活動について、美術品から生活用具まで貴重な文物、文献、資料を展示しています。中国人と日本人との交流の足跡をたどり、一般にあまり知られていない華僑の世界を垣間見ることができます。

神戸華僑歴史博物館が1979年10月に神戸中華総商会ビル(KCCビル)落成時同時開館。作为神戸華僑自己经营的博物馆,它在世界上也是很珍贵的。这座博物馆展览了神戸華僑生活的美术品、生活用品、以及珍贵的文物、文献、资料。人们可以在这里看到中日人士交流的足迹和一般鲜为人知的華僑世界。

Kobe Overseas Chinese History Museum was opened simultaneously when the Chinese Chamber of Commerce Building was constructed in October 1979. This museum is a unique museum of overseas Chinese not found elsewhere in the world operated solely by the overseas Chinese. This museum displays historical heritage and materials related to the daily life and business activities of Chinese in Kobe. Special accent has been laid on the active interaction of Chinese and Japanese, thus revealing the unveiled aspect of Kobe's overseas Chinese.

出所：5秒でわかる日経新聞 出典：「華僑華人概況」九州出版社、2005年等より。

# 年表

世紀	中国・モンゴル帝国	倭寇・海商・華僑	日本
8世紀～ 13世紀	705年 武則天失脚、唐の復活 755年 安史の乱 1271年 元 建国	847年 中国商人 張支信が日本へ来航 1223年 『高麗史』に倭寇の記事がはじめて 記載される	894年 遣唐使廃止 1274年 文永の役 1281年 弘安の役
14世紀	1305年 元が5つに分裂 1368年 明 建国 1383年 明で海禁政策開始	1358年 高麗では倭寇により財政が窮乏 1372年 琉球の中山王が明に朝貢 1392年 高麗滅亡、李成桂即位	1350年 倭寇が高麗の各地を襲 う（倭寇の活動が激化）
15世紀		(海賊、海商による非公認貿易の時代)	1419年 応永の外寇 1467年 応仁の乱
16世紀	1567年 明が海禁を緩和		
17世紀	1644年 明が滅亡、満州族で ある清(1616年建国)の時代へ	1624年 オランダが台湾を統治 1661年 鄭成功が台湾を統治	1639年 鎖国
18世紀		1740年 バダヴィアの華僑虐殺事件	
19世紀		1848年 北米でゴールドラッシュ	1858年日米修好通商条約
20世紀	1911年 辛亥革命 1912年 清が滅亡、中華民国 誕生	1942年 シンガポール華僑粛清事件 1965年 9月30日事件	1910年 韓国併合 1972年 日中国交正常化

# テーマ構成

1章 モンゴル帝国と華僑ネットワークの接続

2章 各国華僑の歴史

3章 現代社会の華僑

4章 華僑のアイデンティティ



# 第1章 (1) : 華僑・移住定住の歴史的背景と問題意識

13~14世紀	15世紀	16世紀	17世紀~近・現代
モンゴル帝国・元	明	明(末期)	清・中華民国・中華人民共和国
陸と海の東西広域ネットワーク	海禁・閉ざされた時代	1567年海禁解除・貿易認可	互市・広域交易
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的な移住者増加(元末)</li> <li>・ベトナム、カンボジア、ジャワ、スマトラ等の臨海地域に定住</li> </ul>	<p>倭寇(海商)の台頭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海禁により移住者が戻れず</li> <li>・移住の規制</li> </ul>	<p>倭寇が華僑に?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアはじめ移住・定住</li> <li>・華僑社会の生成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1840年アヘン戦争</li> <li>・大量移住の時代へ</li> <li>・華僑のアイデンティティ</li> <li>・中世~現代に続く華僑の故郷(僑郷)・華南地域(広東・福建)</li> </ul>
自由貿易	朝貢貿易	自由貿易	統制・自由貿易

1. 現代華僑の初期生成・ルーツはモンゴル帝国(元)なのか(貿易・移住の原型)

2. 現代華僑・大中華圏とモンゴル帝国・倭寇の繋がり、継続性があるのか

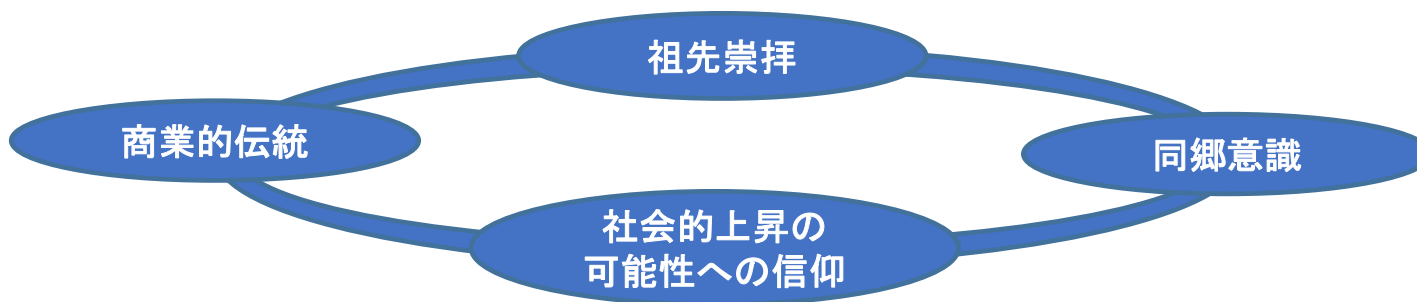
3. 中世~現代の歴史の時間軸で、華僑コミュニティ・華僑ネットワークはいかなるものか

# 第1章 (2) : 中世から近代に至る華僑形成の背景と、彼らのアイデンティティ

	モンゴル帝国・元 (13-14C)	明 (14-17C)	清 (17-20C)	中華民国 中華人民共和国		
商業 貿易	輸出： 絹・陶磁器・物産		輸出： 茶葉	アヘン流入		
	銀による交易システム・銀を吸収	銀を使用しない	銀を吸収	銀を吐き出す		
	元に銀を集約（商業） →帝国各地に分配 →ムスリム・ウイグル人商社投資 →商業・元に銀が還流 ・海上交易による移住	朝貢貿易 鄭和の大航海 ・東南アジア各地 中国式・廟	倭寇→海商の貿易 ・東南アジア移住	互市システム ・東南アジアに唐人町形成	東南アジアへ銀 東南アジア物産はヨーロッパへ ・中国から労働力 ・植民地化の契機	世界へ アメリカ オーストラリア アフリカ...
支配体制 政治	モンゴル支配を嫌い 漢民族が海外移民	雲南征服 南京から漢民族移住→ビルマ等に華僑送り出し	里甲制（戸メカニズム） 徭役・税糧負担→海外へ逃げる	満州族支配を嫌い 漢民族が海外移民	辛亥革命 漢民族復権海外華人が支援	

中国人・漢民族というアイデンティティ

中国文明・文化に対するアイデンティティ



アイデンティティ

# 第1章 (3) : モンゴル帝国・倭寇と華僑との接続をさぐる

## 後の華僑につながったと見られる貿易・移住者のパターン

1. モンゴル族の侵攻から逃れた漢人が東南アジアへ
2. 元時代の貿易推進策で、広くイスラム商人が活躍し海上貿易が発達。中国大陸の南沿岸部を核に海上貿易の従事者が増加し、東南アジアの各地の拠点に駐在・移住
3. 明の海禁政策下でも貿易を続けるために、中国大陸から離れた
4. 倭寇の多くは海商でもあり、彼らは表裏一体だった

### ヒントとなる資料・文献

#### 寺島実郎(2012)

- ・ 13世紀のモンゴルの侵攻で漢民族を中心に東南アジアへ押し出された
- ・ 明時代、貿易が禁止されても艦隊とともに東南アジアへ人が動いた

#### 可児弘明(2003)

- ・ 華僑の初めは11世紀頃の海上商人
- ・ 出身地は福建省、広東省、広西チワン族自治区

#### 周敏(2009)

- ・ 12-16世紀に海を渡って移民したのはほとんど華人で華商
- ・ 元朝の貿易はロシア、ペルシャまで広がり、アラブ人との通商を進めイスラム教の布教も許した
- ・ 通商禁止後も貿易は続いた『山が高ければ皇帝は遠い』

#### 長谷部茂(2020)

- ・ 元朝の国際貿易が活発化し各地へ渡った閩南の人々が華僑の元。東南アジアで華僑となり、別の一群が台湾人になった
- ・ 閩南人はイスラム商人の船で東南アジア海域での交易を行い、11-12世紀にはイスラム商人に肩を並べるまでになった。海洋貿易がライフスタイルとして確立
- ・ 『海商と倭寇は同一人の両面であり、官が市（交易）を禁ずれば倭寇となり、市を通ずれば（交易を許せば）、海商となる』（明代の武将、胡宗憲の言。浙直総督として、倭寇討伐の最前線にいた。王直を懐柔し処刑）

## 第2章(1)：タイ華僑

### 14世紀：華商による貿易の始まり

- タイ領マレー半島の商業港が発達
  - 前期倭寇時代の前に発展していた南シナ海の貿易
- 中国の密貿易（倭寇）
  - 東南アジアに移住する人が増加

### 18世紀：華僑の台頭

- 戦乱後の疲弊した経済を立て直すため、華人のタイ移住を奨励
  - タークシン王と同郷の潮州人に特権を与える
  - 貿易商人以外の華人が増加（商工業者・経営者・労働者）

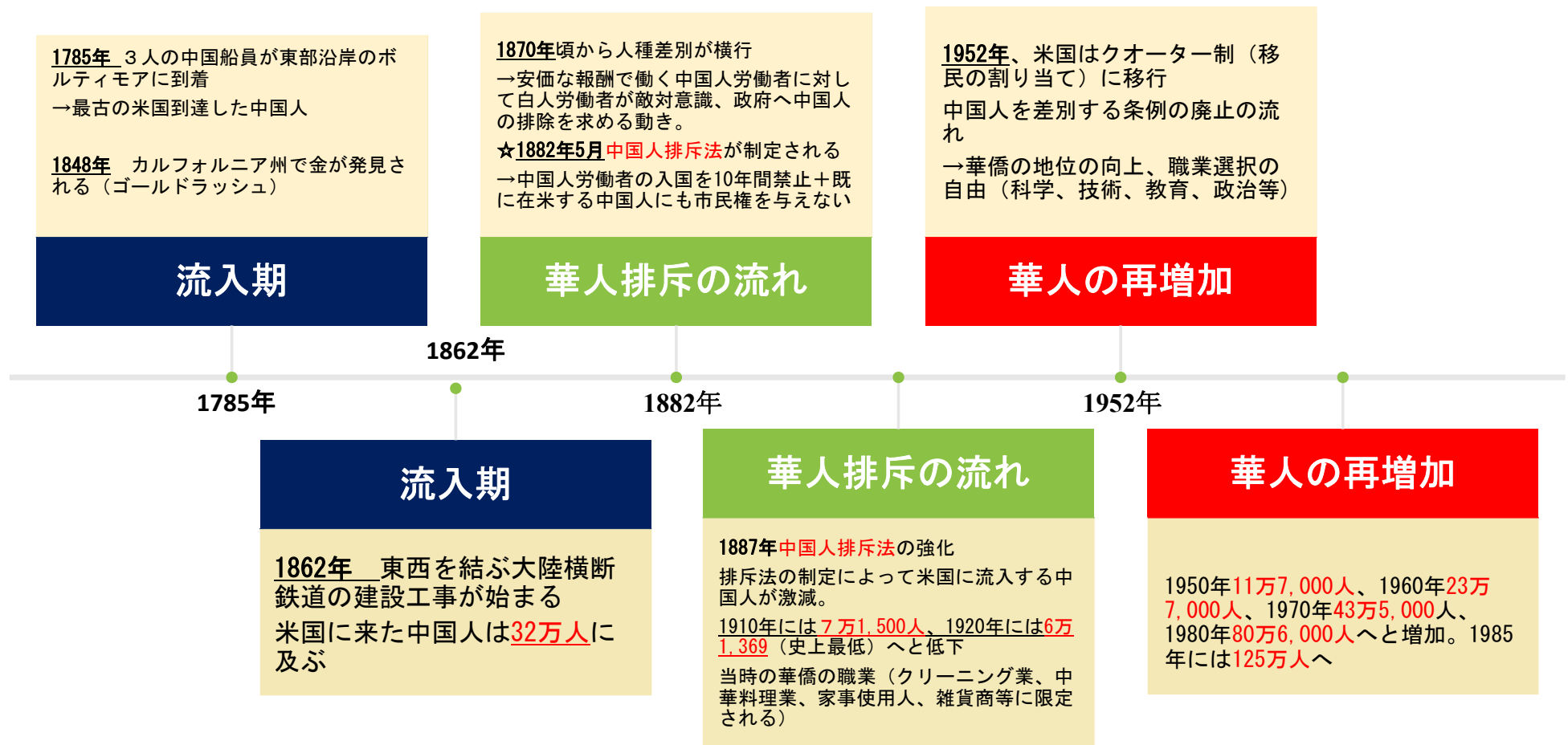
### 16世紀：タイ華僑の同化

- 華商が渡航先で家庭をもつ
  - 一、二代経つと性をすてる華僑が増える

### 19～20世紀：華僑問題

- バウリング条約による王室独占貿易の廃止
  - 自由貿易により異化の中国人移民が増加

## 第2章 (2) : アメリカ華僑



## 第2章 (3) : 琉球の華僑と秘密結社

- モンゴル帝国の支配が影響  
モンゴルの侵攻により
- 琉球の久米村に中国人街  
閩人三十六姓という移民が  
一方奴隷市場も
- 各国に秘密結社誕生  
洪門（ホンメン） 青幫（チンハン）  
アヘンの密売

奴隷→差別→コミュニティ  
→秘密結社？



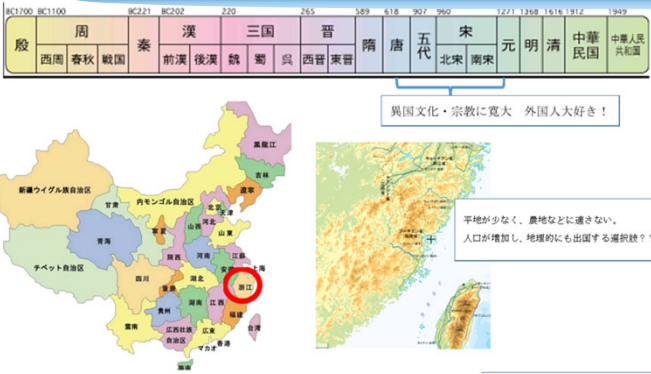
今後、  
琉球、台湾、九州（長崎）の華僑についての調査



出所 : [https://sengokumiman.com/e\\_asia/kumemura36.html](https://sengokumiman.com/e_asia/kumemura36.html)



# 第3章：現代社会の華僑コミュニティ



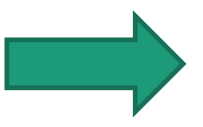
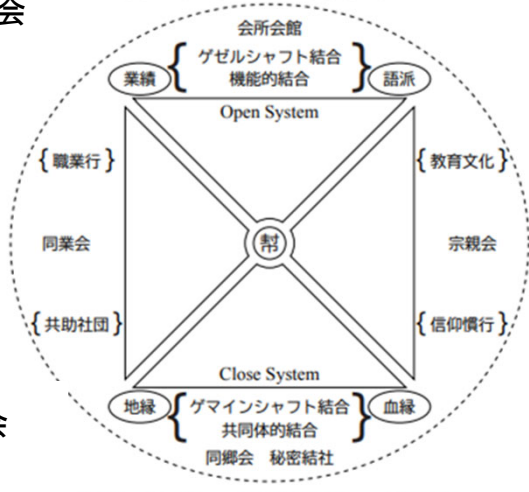
華僑のコミュニティ 「四縁」  
地縁・血縁・業縁・学縁

「郷幫(きょうぱん)」 同じ出身  
「業幫(ぎょうぱん)」 同じ職

図1 幫を中心とした華僑華人社会

利益社会

共同社会

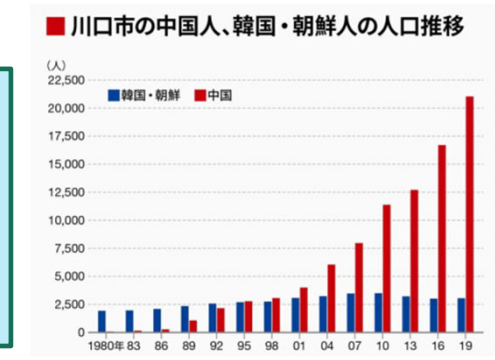
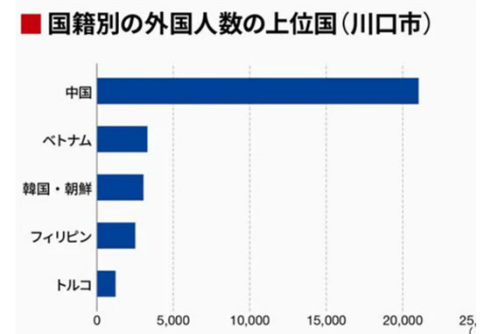


横浜中華街  
商業的 社会



華僑 3世代目！！  
コミュニティの変化

## フィールドワーク：西川口・横浜中華街



西川口における華僑コミュニティの形成  
(地域住民との関わりの時間・密度について)

市の指針により増加  
日本人は高齢化・少子化  
中国人は増加  
「自然発生的なチャイナタウン」

### 第3章：現代社会の華僑コミュニティ

#### 「老華僑」、華裔/富裕層

- ☑ 料理人、仕立屋、理容師
- ☑ いわゆる伝統的な職業従事者が中心であった。
- ☑ 華僑、ユダヤ人、インド人と並んで「世界三大商人」とも呼ばれている。
- ☑ 華僑の富裕層が年々増加していることから、商売に長けている。

例えば:

インドネシアにおいて、華人人口は全体の5%と少ないにも関わらず、GDPへの貢献度は50%、タイの華人人口は14%ですが、GDPへの貢献度は70%に達する。

仮説1: 華僑の影響力は  
単方向(居住国へ)から  
双方向(居住国と中国の間)  
に次第に変化している。

#### 「新華僑」、若者の華僑

- ☑ 従来の職業従事者層に、
- ☑ 留学生などから派生した高学歴かつ知識労働者の人々が加わるなど、
- ☑ より多様性のある層になっている。

SNSでの仕組

例えば:

日本のブランド

華僑のSNS

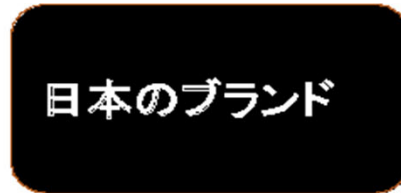
中国の消費者

経営・経済

影響力

異文化

コミュニケーション





# 第3章：現代社会の華僑コミュニティ



連絡、社交

Wechat  
(ウィーチャット)  
QQ

ショッピング

淘宝(タオバオ)

記事、情報共有、ライブ  
コマース

抖音 (Tik Tok)、  
RED(小紅書)



FACE BOOK

LINE

Twitter

AMAZON

楽天

ins

## 第4章：華僑のアイデンティティ

世界を視野に行動範囲を広げ・定着していった彼らのマインドや、商業的海運業を成功させたノウハウ・ナレッジはどのように醸成され、近代の華僑文化へ継承されていったのか。

～18世紀世界の産業システムの流れの仮説から～

18世紀末

西洋におこった世界資本主義システム  
(産業資本主義システム) の流れ

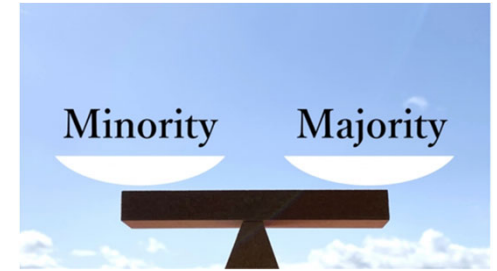
地球上を東へ西へとその「流れ」は広がり続け東アジアの海域に及ぶ

そこに打ち立てられた植民地をベースに...

西洋人は19世紀に入ると西太平洋世界の1次産品を西洋に輸出することで国際分業の網に組み入れた

優秀な資本力、広大な土地の支配を備えた西洋勢力は、安い巨大な労働力として華僑とインド移民を投入

その中で華僑は貧しい苦力のなかから出て、1~2世代で商人となり、原住民や西洋人の力では及ばない流通機構というブランクの穴うめた



マイノリティとは「少数者」・「少数派」を意味する。  
<https://www.adachi.ed.jp/adaoba-j/pdf/hibinoyubuyaki/1814tubuyaki.pdf>

華僑の本質を知る「アイデンティティ」とは...

受け入れ社会の敵視

種族の連帯

種族の経済

出所：ハーシュマン「第二次世界大戦後の東南アジア中国系民の変容するアイデンティティ」

## 第4章：華僑のアイデンティティ

### 華僑社会に大きな影響を及ぼした華僑のアイデンティティの変容とは

・ 世界を視野に行動範囲を  
 広げ・定着していった  
 彼らの「マインド」とは

・ 商業的海運業を成功  
 させたノウハウ・ナレッ  
 ジはどのように醸成され、  
 近代の華僑文化へ継承さ  
 れていったのか

#### 在日華僑のアイデンティティの変遷モデル

	年配の華僑 (戦前の世代)	中高年の華僑 (日中国交正常化前の世代)	若い華僑
年齢	70歳以上	40～60歳前後	20～45歳前後
世代	1～2世代	2～3世代	3～5世代
社会生活に入った時期	戦前～1945	1945～1972	1972～現在
	強い出自志向型 ①中国人アイデンティティ	双方向ジレンマ ①中国人アイデンティティ ②ダブル・アイデンティティ (中日型・日中型) ③日本人アイデンティティ ④マージナル・マン (どちらにもつかない)	重層的・多様型 トランスナショナル・アイ デンティティ ①中国人アイデンティティ ②ダブル・アイデンティ ティ (中日型・日中型) ③日本人アイデンティティ ④マージナル・マン (どちらにもつかない) ⑤トランスナショナル・ アイデンティティ (アジア人・国際人・ 地球人)

# 年間スケジュール

春

回	日付	議 題	発表者	文献調査・フィールドワーク	備 考	議事録
1	4/9	自己紹介今年度テーマ方向性			年間スケジュール確定	
2	4/16				メンバー確定Facebookグループ作成	
3	4/23		森田、黒田			
4	5/7		杉			
5	5/14	・ゼミ長・副ゼミ長確定 ・章分けと担当の議論	光永			森
6	5/21	・中間発表へ向けたスケジュール ・仮タイトル確定「華僑とモンゴル帝国	森、呉		Google Drive設定へ	黒田
7	5/28	予)問題意識、文献リストを完成する	渡辺			森田(仮)
8	6/4	予)研究計画発表資料完成?				谷ヶ崎(仮)
9	6/11	<b>研究計画発表</b>				
10	6/18	中間発表準備・分担発表				杉(仮)
11	6/25	中間発表準備・分担発表				野中(仮)
12	7/2	中間発表準備・分担発表				羽田(仮)
13	7/9	中間発表準備・分担発表				山埜(仮)
14	7/16	中間発表準備・分担発表				田中(仮)
15	7/23	中間発表準備・分担発表				渡辺(仮)
16	8/24	<b>合宿</b>		夏季休暇中フィールドワーク検討		呉(仮)

# 年間スケジュール

秋

回	日付	議 題	発表者	文献調査・フィールドワーク	備 考	議事録
1	9/24	中間発表報告				
2	10/1	各執筆原稿確認・分担発表				
3	10/8	各執筆原稿確認・分担発表				
4	10/15	各執筆原稿確認・分担発表				
5	10/22	各執筆原稿確認・分担発表				
6	10/29	各執筆原稿確認・分担発表				
7	11/5	各執筆原稿確認・分担発表				
8	11/12	各執筆原稿確認・分担発表				
9	11/19	各執筆原稿確認・分担発表				
10	11/26	各執筆原稿確認・分担発表				
11	12/3	各執筆原稿確認・分担発表				
12	12/10	AL祭このあたり？				
13	12/17					
14	12/24	論文第一稿完成？				
15	1/7			最終修正		
16	1/14					

# フィールドワーク予定

## 華僑研究の専門家への聞き取り等

- ・ 窪田 新一 (日本モンゴル協会理事長 大正大学講師)
- ・ 川崎 有三 (防衛大学校 教授)
- ・ 中島 楽章 (九州大学 教授)
- ・ 山田 賢 (千葉大学 副学長)
- ・ 瀬川 昌久 (東北大学 教授)

## チャイナタウン、中華街訪問

(西川口、横浜中華街、華商協会)



# 参考文献・論文 30件（現在）

分類	著者	出版/掲載	タイトル	出版社/掲載誌
1 文献	斯波義信	1995	華僑	岩波書店
2 文献	游仲勳	1990	華僑：ネットワークする経済民族	講談社
3 文献	可児 明・斯波 義信	2002	華僑・華人事典	弘文堂
4 文献	安井 三吉	2005	帝国日本と華僑	青木書店
5 文献	曹士才・王 維	2020	日本華僑社会の歴史と文化-地域の視点から-	明石書店
6 文献	赵红英 张春旺	2015	華僑史概要	中国华侨出版社
7 文献	黄克武	2021	隠蔽的人群：近代中国的族群与边疆	国家书店
8 文献	川崎有三	1996	世界史リブレット39—東南アジアの中国人社会—	山川出版社
9 文献	川勝平太	1999	文明の海へ—グローバル日本外史—	ダイヤモンド社
10 文献	岡本隆司	2021	中国史とつなげて学ぶ 日本全史	東洋経済新報社
11 文献	田中健夫	2012	倭寇 海の歴史	講談社
12 文献	杉山正明	1996	モンゴル帝国の興亡<下>世界経営の時代	講談社
13 文献	Jack Weatherford	2019	チンギス・ハンとモンゴル帝国の歩み	バンローリング
14 文献	Janet L.Abu-Lughod	2001	ヨーロッパ覇権以前（下）	岩波書店
15 文献	海音寺潮五郎	2008	蒙古の襲来	河出書房新社
16 論文	長谷部 茂	2020	海洋中国のメインプレーヤー・閩南人の千年史	拓殖大学 台湾研究 第4号 Page109-
17 論文	周 敏	2009	華人国際移住の歴史的回顧と社会学的分析	アジア研究 Vol.55, No.2, April 2009
18 論文	可児弘明	2003	「華僑」研究のすすめ	敬愛大学国際研究 第11号 2003年3月
19 論文	斯波義信	1999	東アジアにおける国際経済のルーツ	城西大学大学院研究年報15(2)号 1999
20 論文	陳 天璽	1998	儒教文明と華商の経済活動	比較文明 13 Page81-
21 論文	関戸明子	2001	横浜中華街における華僑・華人の生活様式の変容	群馬大学教育学部紀要
22 論文	中島楽章	2011	14-16世紀,東アジア貿易秩序の変容と再編—朝貢体制から1570年システムへ—	『社会経済史学』76-4 2011年2月
23 論文	張 玉 玲	2021	地方における華僑コミュニティの形成と展開	南山大学紀要『アカデミア』人文・自
24 論文	陳 天璽		<a href="#">虹のメタファーに見る華商ネットワークの本質</a>	
25 論文	村嶋英治	2002	タイにおける華僑・華人問題	アジア太平洋討究
26 論文	鈴木佑記	2019	移民が形作るタイ-華僑・華人に着目して-	国土館大学政治研究
27 論文	村嶋英治	1996	日タイ同盟とタイ華僑	アジア太平洋研究
28 論文	施雪琴・守政毅	2009	現代中国女性の東南アジア移動とその影響	立命館国際地域研究
29 文献	ウィリアム・スキナー	1988	東南アジアの華僑社会：タイにおける進出・適応の歴史	東洋書店
30 論文	高橋保	1968	アユタヤ朝時代におけるタイ華僑の発展	アジア経済研究所